

Wesley Hall News



中等部卒業式
(2005年3月)

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No. 87

2006. 3. 6.

特集 卒業

説教「新たな始まり」

シュエー土戸 ポール… 2

●卒業生からのメッセージ

幼稚園	今井 直子／多々内三恵子…	4
初等部	甘利 直幸／上野 愛英…	5
中等部	石川 葵／杉江 匠哉…	4
高等部	菅野絵美子／室伏 彩香…	6
女子短期大学	大塚 綾乃／今野奈緒子…	7
大学	高宮真由子／仁科 豪太…	6

●出発にあたって—先生がたからのすいせん図書— …… 8

●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その14 氣賀 健生… 10

●私の教会 日本キリスト教団 経堂北教会 …… 宇田川雅子… 14

●宗教センターだより …… 15

説教

「新たな始まり」

テモテへの手紙二 1:7；フィリピの信徒への手紙 3:13-14



シュー土戸 ポール

学院宣教師 大学宗教主任

私が初めて卒業式を経験したのは、高校卒業の時でした。しかし今日の日本の教育の中では、幼稚園・保育園の時代から卒園式・卒業式が行われています。卒業という言葉を聞くと、私たちは終わりを意識します。この言葉そのものの意味は修了した、ということであり、その段階の教育を完了したということの意味しています。さらに卒業は、何かを超えること、何かから脱するということも意味します。しかし実は、卒業は終わりというよりも、新たな始まりを意味しているのです。英語で「卒業式」「学位授与式」は「commencement」と呼ばれ、この言葉の本来の意味は「開始・始まり」なのです。

私たちの人生は、卒業と新しいスタートの繰り返しです。そしてその人生の節目において、私たちは自分自身の人生を振り返り、新たにスタートする機会を得るのです。例えば、幼稚園・保育園からの卒園は小学校での新しい生活、小学校からの卒業は中学校での新しい生活のスタートを意味します。高校卒業は大学での新しい生活を、大学卒業は社会人としての新しいスタートを意味することが多いでしょう。新しいスタートラインに立ち、未知の新しい生活へ第一歩を踏み出す今、その歩みが希望に満ち、自分を最大限に生かしていくものとなるために重要な二つのことを、神のみことばから考えたいと思います。

不安や恐れに向き合う

人生の新しいスタートを切るために重要なことは、不安や恐れに向き合うということです。不安や恐れには様々なものがあります。人前で

話すことへの恐れ、新しい人間関係への恐れ、失敗への恐れなど、私たちの生活には恐れと向き合わなければいけない時が存在します。実はこの恐れは、成功への道を阻む大きな障害物になるのです。恐れそのものが問題なのではありません。恐れは、時に私たちに重要な警告を与えてくれるものでもあります。しかし、私たちが恐れにとらわれて身動きがとれず、必要なことですら出来なくなる時、私たちは「臆する霊」に支配されていることになるのです。多くの人々が、このような恐れによって麻痺させられ、自分に与えられた力を最大限に発揮できずにいるのです。

聖書には、「恐れるな」という言葉が約40回記されています。テモテへの手紙二の1章7節では、直接その言葉は書かれてはいませんが同様の内容を伝えていています。使徒パウロは、この手紙を初代キリスト教の若い指導者であるテモテに書き記しました。テモテが自信を持てずにいたため、使徒パウロは以前にも、若いからといって恐れることはないとの励ましの手紙を送っていました。そして、使徒パウロはテモテへの手紙二において「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を私たちにくださったのです」(テモテへの手紙二 1:7)と記し、おくびょうは神からくるものではないことを思い起こさせるように語ったのです。

イエス・キリストに信頼する時、神の聖霊が私たちの心に入ってきてくださり、恐れを乗り越えるために必要な力と確信を与えてくれます。神が導いてくださる時、私たちは自分自身の持つ恐れに向き合うことができます。私たち

は恐れに支配されるのではなく、恐れをコントロールできるようになるのです。

恐れと向かい合うことは、正しいことを行う勇気にもつながります。私たちの人生の中では、正しくない行為であるを知っていながらも、それが自分にとって安易な道である場合、そちらを選んでしまう時があります。一つの例をあげましょう。ある農家の人々が獣医を訪ね、「うちの馬は時々普通に歩けけれども、時々足を引きずってしまうのですが、どうしたら良いでしょうか」と尋ねました。獣医は、「今度その馬が普通に歩いている間に売ってしまいなさい」と答えたのです。残念なことに、このような不誠実な態度は、今日の社会で当たり前のことになりつつあります。恐れによって、誠実さが与える損失よりも不正な利益を選びとるのです。しかし、表面的な利益を得るために真実を欺くことは、その人の弱さを現しています。誠実さは真の強さの現われです。履歴書について正直であることや、ビジネスにおいて公正であること、また自分自身の短所を率直に見つめられることなどは、すべて強い人格の現われです。正直であり誠実であることは、時に利益の損失を意味するかもしれませんが、自分自身が謙虚にさせられることを意味するかもしれません。しかし、そのような困難な時を乗り越えていく力と、愛と、自制の力が、神から約束されているのです。

また、恐れによって私たちは正しくないと知りながらも他の人と同じことをしてしまう時があります。ある実験の例をあげてみましょう。10人の学生が一つの部屋に集められ、長さの違う3本の線を見て、一番長い線を研究者が指した時に手を挙げるように指示されました。しかし10人中9人の学生は、実験前に2番目に長い線の時に手を挙げるように指示されていたのです。さて、他の9人の学生が手を挙げた時、10人目の学生はどのような行動をしたでしょうか。明らかに答えが間違っているにも関わらず、10人目の学生が他の9人と同時に手をあげた確率は75%でした。私たちは孤独を恐れます。しかし、他の誰も共にいてくれない時でも神は共にいてくださいます。卒業という新しいスタートを迎える今、神に信頼する時あなた

は決して一人ではないということを心に刻んでほしいと願います。

ゴールを目指して

人生の新しいスタートラインに立ち、未知の生活へ踏み出して行く時に重要となる二つ目のことは、行き先を知ることです。私たちは皆、ある目的のために創られました。私たちが育った教会の教会学校の事務室に、ポスターが貼ってありました。そのポスターには、いじめられた小さい男の子が自分自身を慰めている絵が描かれていました。その子は、“I know I'm somebody special because God doesn't make junk.”（神様ががらくたを創るはずなどないのだから、僕だって特別なんだ）と書かれていました。神は、価値ある、意味のあるものしか創るはずなどないのだから。私たち一人一人、神によって創られたかけがえのない存在であり、神は私たちの人生に目的を持っています。

フィリピの信徒への手紙3:13-14では、次のように述べられています。「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」自分の人生の目的を知る事で、優先すべき事が明確にされます。何をしたいかが明確となり、同時に何をしないべきかも明確となるのです。

どこかに行こうと計画して道順を決める時、どこに行かないかも知る事になります。どこに行くのかも分からない時、私たちはあらゆるところをさまようこととなります。しかし目的地があり、道順も決めた時、私たちは「この道は行きたい所には行かないから、この道は通らない」と言う事ができるのです。自分の人生の目的を見つけることで、私たちは人生で最も大切なことに焦点を合わせ、目標を前に設定することが出来るのです。

今、卒業というスタートラインに立っている皆さんが、自分だけに与えられた人生の目的を見つめ、勇気と力を与えられて新しい生活を歩んでいくことができるように、心から祈っています。



卒園にあたって

今井直子

ゆり組 今井 希 保護者

大雪の朝のこと、窓の外の美しい雪景色に目を輝かせ「かみさま、ありがとう……」その後しばらくお祈りをしていた娘に、何を祈っていたのか聞くと「ないしょ!」とにっこり。彼女は神様との会話を自然にとても楽しそうにするようになっていました。入園した頃は不安ととまどいでいっぱいであった娘も今は神様に

見守られている安心感と、必ず受け止めてもらえる存在を感じ、まっすぐ神様に感謝の言葉を向けられるようになりました。幼稚園での様々な経験を通して信頼、喜び、感謝の心を育み、神様としっかりとつながりを築けた娘は幸せです。幼い頃のこの経験はいかなる逆境をも乗り越えていく力となるでしょう。幼稚園で培われた心が根となり「地の塩、世の光」として実を結んでいかれるようにこれからも子どもと共に学び歩む親でありたいと思っております。

この三年間、子ども達を慈しみ導いて下さった先生方、本当にありがとうございました。



年長組の子どもたち

多々内三恵子

教諭

年長組の子どもたちに、幼稚園の礼拝で聞いたお話の中で、一番印象に残っていることを聞いてみました。

A子：イエス様とお弟子さんがお舟に乗ったとき、大嵐になってイエス様が出てきて嵐がしずまったの。すごいな—と思って……

B男：神様のお話ぜんぶ聞きたい。ほくたちに

力をあたえてくれるでしょ？

C男：神様は好き。病気の人とか、転んだ時なおしてくれるから。

D男：なんでイエス様、悪魔より強いのかな—？

(マタイ4・1-11) 悪魔は神様につかえなかったけど、それはイエス様「だめだめ」っていったでしょ。だから悪魔の方がよわい。

E子：泣いているときに神様に何回もお祈りしたらだいじょうぶになる。

F子：神様は雨をふらせたり、ふつうの人間ではできないことをやってくれる。

神様への信頼と感謝を持って次のステップへと進んでいく子どもたちの姿が見えます。



中等部で得たもの

石川 葵

3年F組

毎日の礼拝。週一回の聖書の授業。中等部での生活は常に神様が聖書が側にありました。礼拝や授業では沢山のお話を聞きました。卒業を迎える今、3年間を振り返って考えると、お話から私が学んだことは「信じる」ということです。家族、友だち、先生など私達の周りには信じ合う関係が沢山あります。毎日

のお祈りも神様がいて、聞いて下さると思えるから続けられます。友だち同士だって信じ合っているから友情が生まれ仲良くできるのだと思います。神様も友情そのものも目には見えません。目に見えないものは確かに信じにくいところもあります。でも見えないからこそ、信じている限り消えることがないと私は思っています。目に見えないものを大切にしよう、信じようと思う心や力を私は中等部3年間で得られた気がします。これから先も信じられるということを大切にしていきたいと思えます。



本当の幸せ

甘利 直幸

6年桃組

「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人達のものである。悲しむ人々は……。」

これが僕の一番好きな聖句です。この聖句を読んでいると、うれしいような悲しいような不思議な気持ちになれます。お兄ちゃんといけんかした時、友達といけんかした時、いやな気持ちになった時……、いつでもこの聖句を思い

出します。時々、「自分は不幸だ、勉強、中と半ば、スポーツ、そこそこ。なのになんであいつは完ぺきなんだろう」と思う時があります。でも、よく考えてみると生きている事が幸せなのに、なにわがまま言ってるんだろう、と思います。

僕は、いい家族、いい友達、いい先生にめぐまれています。



大好きな讃美歌

上野 愛英

6年梅組

私の大好きな讃美歌は「そらのとりは」という讃美歌です。讃美歌ならなんでも大好きなんですけど、私になぜこの曲を選んだかという幼稚園の時から歌っていて、今日の朝の礼拝でも歌ったからです。初等部に入ってからたくさんの讃美歌を歌ってきたけどめったにこの讃美歌を歌う時はありませんでし

た。でも今日、幼稚園の時の気持ちを思い出せました。

幼稚園の時私はこの讃美歌を歌うたびに、空の鳥さんは小さくても神様が守ってくれているんだ。安心だなあ。でも私達にもお恵みをたくさんしてくれているんだ。神様は悪い事は小さくてもおきらいなんだ。などこの讃美歌を通して神様と心を通じ合わせていました。それを思い出した今日、幼稚園のときの私と同じ気持ちになりました。この讃美歌は神様と私が心を通じさせる鍵なんだと思います。



中等部で得たもの

杉江 匠哉

3年F組

「だから明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞はその日だけで十分である。」(マタイ6:14)

3年間の中等部生活は挑戦、そして成功と失敗の繰り返しでした。壁に突き当たり明日が不安な時、いつもこの聖句を思い出します。「何を食べようか悩むな、命は食べ物よりも大切だ」

とも説いています。本当に大切な事は何であるのかを、いつも気付かせてくれました。中等部生活最後の文化祭では、思うように進まず、うまく行かない時もありましたが、仲間と協力しあい一生懸命準備した結果、達成感と仲間との「絆」を感じる事が出来ました。明日には無限大の可能性がある、と信じて様々な事に挑戦した中等部生活で、多くの自信、何より信頼出来る多くの大切な友人と出会う事が出来ました。大切なのは、明日を共に目指せる仲間だとわかった3年間でした。



高等部で 得た道

菅野絵美子

HR303

高等部での3年間、それは自分の目指す道を定めることができたターニングポイントとなりました。高校は私たちに様々な可能性を示してくれる場所だと思います。今まで知らなかった事象を授業や部活動を通じて知ることにより、夢になれること、目標として目指していける道の選択肢を得ることができます。

私は、この大切なことの有難みを知らずに過ごしてきました。しかし、2年3年と分野がより細くなっていく選択科目や、日々の礼拝の先生方によるお話など、そこから新しいものを知り、自分の羅針盤を習得することができていたのです。しかし、これからは、自ら色々なことに意欲を持って働きかけ、高校生活で見えてきた道の入り口をくぐり、可能性を探していかなければなりません。その道の先にある夢に向かって、一つ一つ丁寧にステップを踏んでいきたいと思います。3年間ご指導して下さいました先生方に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



卒業に あたって

室伏 彩香

HR305

高等部での3年間は楽しくて、あっという間に過ぎてしまいました。その短い時間の中に毎日あった15分間の礼拝は、貴重な時間でした。先日の礼拝で「聖書をどのようにとらえるか」というお話がありました。聖書全体を一般教養としてとらえる人、何かひとつの箇所を心の支えとする人。私は、後者です。ヨブ記8

章7節「過去のあなたは小さな者であったが、未来のあなたは非常に大きくなるであろう」という聖句があります。これは初等部の時に読まれた箇所ですと心に残っています。なにかくじけそうになったとき、この聖句を思い出すと勇気をもらいます。4月からは、今までとは全く違った自由な環境下におかれます。不安はたくさんありますが、本当に自分の力を活かして大きくなれる時間を与えられると思います。それを無駄にすることなく、大きく成長していけるように新たな一歩を踏み出したと思います。



一粒の地の塩を 目指して

高宮真由子

経済学部経済学科4年

私の大学生活の中で一番の経験は、宗教センターが企画した昨年春のフィリピン里子訪問旅行への参加だ。有毒ガスを放つ70ヘクタールのゴミ山でゴミ拾いをしながら暮らす人々、劣悪な環境で育つ子供達など想像を超えた世界を目の前に、ただ茫然と立ち尽くすだけの自分に苛立つ事で始まった旅だった。それでもホームステイ先の

里子の村では、精一杯のもてなしに胸を熱くし、屈託のない笑顔に救われながら真の豊かさとは何かを考えさせられた。良い経験が出来たと思う反面、言いようのない空しさを感じながら帰国して一年。今後の支援の在り方や貧困の現実を直視する等、旅のテーマは数限りなく持っていたが今振り返れば、自分の存在の小ささを確認する為の旅であったと思う。あの時見た現実に対して私ができることなど皆無に等しく、ただただたとえ微かな光りであっても世に光り、一粒の地の塩となる自分を目指すための旅だった。最後になったが後輩のみなさんにも、あなた達自身の為にこの旅に参加してもらいたいと願って止まない。



短大で得たもの

大塚 綾乃
家政学科2年

初めに、二年間の学生生活を守り導いて下さった神様に感謝いたします。この短大での二年間を振り返ってみたとき、最大の恵みはキリスト教の学校で生活することができたことだと感じます。そのおかげで日曜日以外にも、神様の御言葉に耳を傾ける時をたくさん持つことができました。キリスト教の授業や

日々の礼拝を通して、私は常に神様に守られ、愛されていることを感じながら、楽しい日々を過ごせたように思います。私の存在を通して神様の栄光を現すために与えられた宗教活動を、喜びをもって奉仕できたことがとてもうれしいです。短大での二年間で頂いた恵みの数々は、まさしく天に積むことのできる宝であったと確信しています。短大を卒業して社会人となっても、常に神様を感じ、喜びや感謝をもって生活していきたいと願っています。また、青山学院に関わる全ての人々に神様の恵みが注がれるよう祈ります。



短大で得たもの

今野 奈緒子
専攻科児童教育専攻

短大に入学してからの3年間は、本当に多くの学びと経験を行うことが出来たと同時に、神様からたくさんの恵みを頂きながら生活することが出来ました。そして、短大でのキリスト教活動が私の学校生活をより豊かにし、充実したものとしてくれました。ハンドベルやゴスペルでの活動を通して神様を賛美する事が

出来たこと、短大の礼拝に出席し、礼拝での奉仕を行うたびに神様の大きな愛によって守られていることに気付かされたこと、また短大の宗教活動センターへ行くと家族のように温かく迎え入れて下さった先生方や職員の方々、そして短大生に限らず、一緒に活動を行ってきた多くの仲間がいてくれたことが、私の大きな支えとなりました。

短大を卒業した後も、神様によって新しい道が与えられています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」この御言葉を心に留めて、これからも神様と共に歩んで行きたいと思います。



卒業にあたって

仁科 豪太
経済学部第二部経済学科4年

私はこの大学・学部に入學した当初、自身の将来に対して良いイメージを描くことが出来なかった。しかし、今このように卒業を間近に控え自分の大学生活を振り返ってみたときに、この大学・学部に入學して正解だったと素直に言える自分に心底驚かされる。

私はこの大学・学部を通して大きく二つのことを学んだ。一つは信仰を持って歩むことの素晴らしさであ

る。これは私が所属していた青山キリスト教学生会という学生団体を通して学んだことである。主イエス・キリストに従うことによって謙虚な姿勢と神と人に仕えるという真実なる歩みを与えられた。

そしてもう一つは、学問の真髄でもある自ら学び問うことの大切さ、面白さを知った。これは所属していたゼミの先生を通して学んだことである。ある本にこう書き記されていた。「学校を卒業するということはもう一人で学べるということである。」私はこの言葉を大切に歩いていこうと思う。また同時に、この情報が蔓延した社会の中にあっても、常に信仰を自分の根幹に置いて一筋の光を社会や他者に対して放っていく、そのような歩みをしていきたいと思う。

出発にあたって 先生がたからのすいせん図書

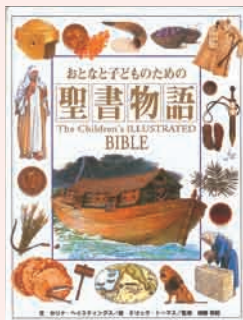


①

『やせたぶた』

作/木島勉 絵/本田克己
リプロポート

ぶたなのにやせているため、ぶたの仲間からいじめられるフータローは、どうにかして太ったぶたになろうとします。ある日、さるの博士に相談し、自転車の空気ポンプでお尻から空気を入れて見かけだけ太るのですが……結局やせたぶたに戻ることにしたのです。物語の最後には、「ひとがどういったって、そんなこと どうだって いいや、じぶんは「じぶんさ」と颯爽と歩き出すフータローの姿に勇気づけられます。



②

『おとなと子どものための聖書物語』

文/セリナ・ヘイスティングス 絵/エリック・トマス 監修/加藤常昭 フレーベル館

旧約聖書・新約聖書を概観し、「創世記」から始まる聖書の記述をイラストとともに子ども向けにわかりやすい文章でまとめています。聖書に出てくる動植物や人物、場所が写真資料で紹介され、それぞれに解説も添えられていますので、聖書の時代背景やイエス様の生涯を身近に感じることが出来るでしょう。どこからでも読み始められる、大人も子どもも楽しみながら聖書に親しめる一冊です。



③

『ほくとわたしのきょうのみことば』

たかぎてるお 著
いのちのことば社

聖書の中に「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」というみ言葉があります。毎日、『ほくとわたしのきょうのみことば』を開いて、神様の言葉を味わって読み、祈りつつ歩んでほしいと思います。うれしい時も、悲しい時も、どんな時にも、神様が見守ってくださっていることを決して忘れず、一日一日を神様と共に歩んで下さい。ご卒業、おめでとうございます。



⑦

『カントとカモノハシ』

ウンベルト・エーコ 著
和田忠彦 監訳 岩波書店

「在る」とは何か。世界を作り出している「在る」。聖書が示している「わたしはある」という神。「在る」を私たちは無視することが出来ません。本書はイギリス人がカモノハシを発見して辞典に記載するまでの出来事を題材に、「在る」の仕組みを記しているものです。「在る」はとても不安定なもの。しかし、だからこそ真剣に求めなければならないもの。世界の基底へと読者を導いていきます。



⑧

『祈り』

奥村一郎 著
女子パウロ会

祈りとは魂の呼吸。祈りが大切なのは知っています。祈りのスタイルも分かっています。では、祈りとは何でしょう。祈りは人の本質に関わるものと著者は言います。「呼吸だ」と。「祈り」から人間とは何かを問いかけます。語るより、聴くこと。伝えることより、黙すること。祈りから生活の優先順位を問いかけます。祈りの力、祈りの可能性が開かれていきます。



⑨

『なぜキリスト教か』

土戸 清 著
教文館

著者は牧師、新約学者、教授。学問、教育、教会の中から生まれた思索の産物です。その気迫は次の一文に見られます。「クリスチャンであることは、匿名で過ごす居心地よい領域から、一步踏み出すことである。バプテスマ(洗礼)を受けることは、『時代精神』にチャレンジする自分を人々の前に公表することである。また聖餐に与ることは、キリストに対する信仰に生きることを、公にすることである」(p.119)

選者：①・②生沼晴美(幼稚園)、③柚村 満(初等部)、④水澤典子(初等部)、⑤加藤敦(中等部)、⑥佐藤いつ子(中等部)、⑦・⑧伊藤大輔(高等部)、⑨・⑩伊藤勝啓(女子短大)、⑪河本洋子(大学)、⑫嶋田順好(大学)



④

『しなやかに夢を生きる』

棚村恵子 著
青山学院

青山学院創立百三十周年を記念して出版されたこの素晴らしい書に出会い、また幸運にも著者であられる棚村恵子先生の講演を拝聴する機会を与えられ、改めて「青山学院で学べることは何て幸せなんだろう」と心から感謝しました。スクーンメーカー先生が種を蒔いてくださったこの青山学院で学んだことを誇りに、みなさんどうぞしなやかに夢を生きて行ってください。



⑤

『たんぼぼのお酒』

レイ・ブラッドベリ/北山克彦 著
晶文社

本学院のリチャード・バツソ先生にご紹介いただいた、「Dandelion Wine」を推薦させていただきます。12歳の少年ダグラスと、弟のトムやその家族に起こるひと夏の様々な出来事。誰もが通り過ぎていく、溢れんばかりの想像力を持つ幼少時代、体いっぱい全ての恵みを感じよう、表現しようという少年の姿に、ハッとさせられ、嬉しくも悲しくもなる作品です。何度も読み返したい本になるでしょう。



⑥

『小さい針の音』

小川未明 著
新潮文庫

先生に贈る時計を子供達は皆一度ずつその手に包む。幼い思いを映す懐中時計は、青年の苦学の年月と共に在った。地位を得、彼が新調した時計はどれも狂う。記念の時計と再会した夜、彼は「いい人間になります」と林檎の頬でいう子供達を夢に見た。…真直ぐにイエスを求めながらも去った青年を思う。行い正しく勤勉な日々を彼を領していったのは何か。読む者の内で過ちが静かに揺れ出す小篇。

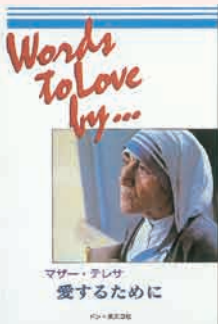


⑩

『アメリカ教会の現実と使命』

マーティン・E・マーティー 著
三宅威仁 訳 新教出版社

原題は『パブリック・チャーチ：主流派・福音派・カトリック』。著者マーティン・E・マーティーはアメリカ・キリスト教史の専門家。この書物を読んで、キリスト教がどのようにパブリック・チャーチであることを貫くことができるのか、あらためて問われるものです。キリスト教主義大学の卒業生にぜひ考えてほしいところです。信仰は単に心の問題だけでなく公的秩序にもかかわるからです。



⑪

『愛するために』

マザー・テレサ 著
三島 慶 訳 ドン・ボスコ社

原題『Words to Love by MOTHER TERESA』。「愛と奉仕の精神」——言うは易く行は難し。しかし、神の愛によって愛さずにはられないことを示したマザー・テレサ。「言葉が多すぎます。…何をしているのかを見てくだされば結構です。」その人は、まず静かにイエスに祈ることによって、神の現存を映し出す存在となり、多くの魂を愛した。人生は愛するためにある!! とキリストの香りをたただよわせながら、光を放ち、輝いた!!



⑫

『春にして君を離れ』

アガサ・クリスティ 著
中村妙子 訳 クリステイ文庫

あなたは、本当の自分に会う勇気がありますか。もしその姿が、見せかけの善意と愛情と自己満足に満ちていたら……。そして皆から尊敬され、慕われていると思っている自分が、本当には疎まれ、誰からも顧みられない、孤独な存在であると感じはじめたら……。その隠された自分の正体に直面する勇気を持てますか。ブ・ア・リトル・ジョーン、それはもしかすると私のことかもしれない。ミステリーの女王の手になるキリスト教文学の傑作。訳も素晴らしい。

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料

その14 — アメリカ・来日メソジスト宣教師の見た日本 —

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵キリスト教貴重文献・史料紹介第14回。今回と次回は当資料センター所蔵の写真史料を紹介します。これらはアメリカ合同メソジスト教会史料館(ニュージャージー州マティソン市のドゥルー大学構内)に保管されている宣教師史料のうち、日本伝道の傍ら、彼らが撮ったアルバム数十冊に及ぶ写真を筆者がコピーしたものです。中でもブル宣教師(Earl Rankin Bull, 1911～1926年日本伝道)は余程のカメラマニアであったとみえて、彼の撮った写真は各ミッション・スクール、地方教会から、現在はもう日本でも見られなくなった民衆の生活や街頭風景など数百点に及んでいます。紙数の関係から、その幾つかを紹介しましょう。

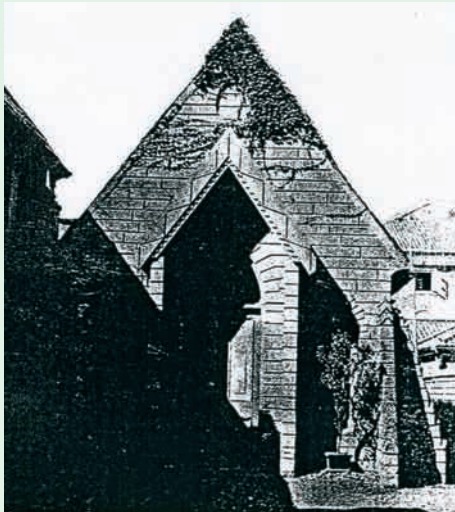


① Bullの説教路傍伝道

先ずブル宣教師の沖縄路傍伝道風景(写真①)。ブルは沖縄や九州方面で主として伝道をしました。

次に1872(明治5)年3月10日、横浜山下町にバラ(J. H. Ballagh)の建てた日本最初の教会(写真②)。日本のキリスト教黎明時代で未だ各教派ごとの伝道は行なわれず、「日本基督公会」とよばれました。これは、奇しくも1853年3月3日(旧暦3月31日)に幕府がペリー提督と日米和親条約を結んだ、まさにその場所です。

次は青山学院講堂前のミス・ムーン(Mira Bell Moon, 前列中央)のバイブル・クラス(写真③)。毎週100人以上を集めて行なわれる彼女のバイブル・クラスは夙に有名でした。1935年(昭和10)年2月13日、青山一丁目での自動車事故で入院した瀕死のベッドで「どうぞあの運転手を罰しないで下さい」と繰返し、後にこれを聞いたタクシーの運転手は感激してクリスチャンになったというエピソードは有名です。



② バラの教会



③ ミス・ムーンのバイブルクラス



④ C. W. Iglehart の路傍伝道

その次はアイグルハート宣教師 (C. W. Iglehart) の路傍伝道の光景です (写真④)。アイグルハート兄弟のうち、兄のエドウィンは戦前戦後を通じて日本在任の殆どの期間を青山学院で奉仕し、その人格的感化を及ぼしました (『青山学報』No.166 参照)。弟の C. W. Iglehart は青山学院でも教えていましたが、弘前の東奥義塾で長い間奉仕しましたから、この路傍伝道も東北のどこかの町か村の風景でしょう。

さてその次は稲荷神社でキツネと対面？する宣教師です (写真⑤)。恐らくスペンサー (David Spencer) 師でしょう。一体、宣

教師たちが不思議でならなかったことのひとつは、アジアで最も知的で文明開化の進んだ日本人が、何故獣を拝むのかということでありました。

6番めの写真は新島襄の墓参をするガウチャー (John F. Goucher) 博士です (写真⑥)。まだ見たことのない日本の青山学院 (当時東京英和学校) の創設のために、莫大な私財を投じたガウチャー師は、その後6回にわたって来日し、青山学院の礼拝でも説教しましたが、そのうちの何回めかの時に新島襄の墓を訪れたのでしょうか。

次からは関東大震災関係の写真です。まず弘道館と呼ばれた大講堂の廃墟 (写真⑦)。現在の本部のあたりにありましたが御覧の通りの有様となりました。



⑤ イナリと宣教師



⑥ Goucher の新島墓参

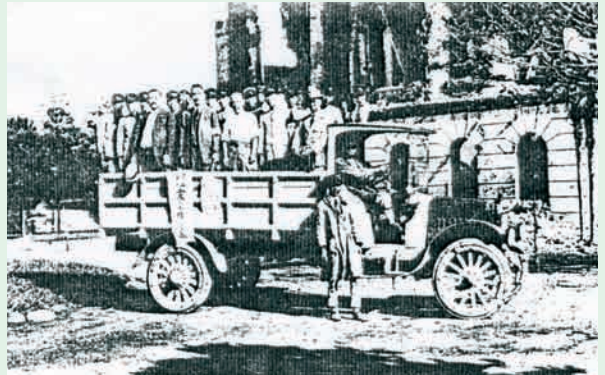


⑦ 弘道館の震災後

関東大震災の直後から、青山学院はボランティア救援隊を組織し、震災難民に食糧配給など奉仕活動を行ないました(写真⑧⑨)。トラックの中央に立っているのは、ボランティアの指導者阿部義宗先生です。震災のおこった9月1日は、まだ寮の学生が夏休みから帰って来ていなかったため、阿部義宗先生の英断で、当時流言飛語の犠牲となって迫害された「朝鮮人」(当時そう呼ばれました)を、学生寮(寄宿舎)に多勢収容して彼らを助けたのでした。

次は当時の銀座教会(写真⑩)と関東大震災の銀座教会の廃墟です(写真⑪)。まさに関東大震災だったことがわかりますね。

そして最後は、震災直後の皇居(当時は宮城と呼ばれていました)前広場のテント村です(写真⑫)。震災後暫くは罹災者達のこんな風景が皇居前で見られていました。



⑧ 震災救援ボランティア



⑨ 食糧配給ボランティア



⑩ 銀座教会



⑪ ヤケアトの銀座教会



⑫ 皇居前のバラック

さて次は若き賀川豊彦です。(写真⑬)。彼が神戸の貧民街でボランティア活動をしていたことはよく知られた事実ですが、これはその貴重な一場面です。

最後の3点は、現在ではもう殆ど見られなくなった街頭風景です。まずアメ売りのおじさんとそれをとり囲む子供の風景(写真⑭)。おじさんはこのあと紙芝居を始めます。次は街頭の下駄なおし(写真⑮)。こんな商売は今ではもう見られなくなりましたね。最後は銀座通りをゆく荷車。犬がひっばっています(写真⑯)。市電(都電ではありません)の線路と家並みの風景に注目。“旧き佳き銀座通り”という感じですね。

以上、宣教師の撮った曾ての日本の風景です。



⑬ 賀川 in スラム



⑭ アメ売りのオジサン



⑮ 下駄直し



⑯ 古きよき銀座

日本基督教団 経堂北教会

宇田川雅子

高等部教諭

私が生まれた頃より通っている経堂北教会は、プロテスタントの教会で、その中でも長老派の流れをくむ教会です。

経堂北教会の創設者、故村田正亮牧師は47歳のときに会社を辞め、キリストを知らない人々にキリストの恵みを宣べ伝えようと神学校に入学しなおし、牧師になりました。経堂の村田牧師宅で始められた聖書研究会が母体となって1937年に発足し、現在の会堂は1967年創立30周年に建てられたものです。

場所は小田急線経堂駅から徒歩5分に位置し、閑静な住宅地にある地域に根ざした教会です。

毎週日曜日には老若男女160人余りが礼拝に出席していますが、日曜の礼拝の他に毎週水曜日午前と夜の祈祷会、子供の教会学校（幼稚園児から高校生まで）、青年会、婦人会、など年代別の集会や家庭集会があります。牧師は2人。岸俊彦先生と鈴木賛美先生です。

教会での行事はたくさんありますが、特に大きいものがイースターと秋の一日修養会とクリスマスです。イースターには教会

学校の子供たちは新しい命を象徴する卵に飾りつけをし、近くの公園でイースターエッグ探しなどをします。大人は礼拝でイエス様の復活をお祝いします。

秋の一日修養会では、例年9月23日に外部の施設を借りて講師を招いてお話をうかがい、その後ディスカッションの時をもちます。10年くらい前までは1泊でやっていたのですが、段々教会員の寄る年波には勝てず、最近はおっぱら日帰りです。クリスマスには、教会学校では恒例のミュージカルを上演し（脚本、歌、ダンス、衣装などすべてオリジナル&手作り!）毎年12月23日はその上演会、CSクリスマス礼拝にあてています。24日のクリスマス・イブ礼拝には多くの久しぶりの人たちや初めての人たちと共に集い、クリスマス礼拝では3歳児から90歳までが一同に介し礼拝後祝会をもちます。

どうぞ一度いらしてください。



日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051

東京都世田谷区宮坂 3-21-11

TEL 03-3428-5029

<http://www.homepage2.nifty.com/Kyo-doKitaChurch>

幼稚園 より

寒い冬の日も、子どもたちは園庭で鬼ごっこをしたり砂遊びをしたり、三輪車レースに興じたりしながら元気に過ごしてきました。部屋の中でも時間をかけてじっくりと製作に取り組んだり、友だちとアイデアを出し合っってホールに大きな積み木の基地を作ったりと、遊びを楽しくしていきました。園内のさまざまな場所で、年少組、年中組、年長組の子どもたちが自然に交じり合い、道具の使い方や遊びのルールなどを伝え合いながら遊んでいる姿を多く見るようになりました。子どもたちそれぞれが、ともに過ごす仲間とともに成長してきた3学期。年度当初とは見違えるほど、心も身体も大きくなりました。

13日(月)の終業礼拝には、この一年の歩みを守り導いてくださり、一人ひとりを成長させてくださった神様に感謝をします。翌14日(火)には卒園式を迎えます。喜びと感謝を胸に、巣立っていく子どもたちです。新しい学年の始まりに向けて、大きな希望を持って歩み続けていく子どもたちに力づけられます。

(教諭 生沼晴美)

初等部 より

卒業礼拝

3月10日(金)

6年生のみで守る卒業礼拝。この日から卒業式へ向けての準備が始まります。

説教者は小澤淳一宗教主任。

6年生を送る礼拝

3月13日(月)

在校生が6年生を送る礼拝。6年生からそれぞれの学年に御言葉とともに、「友情の火」と呼ばれるロウソクの炎を贈ります。奨励者は長瀬茂先生。

青山学院 CFJ フィリピン訪問プログラム

3月26日(日)～31日(金)

5年生4名が献金で支えているスポンサー

チャイルドを訪問し、フィリピンの現状を見聞します。今年は、初等部、大学のほか中等部も一緒にプログラムを行います。

(宗教主任 小澤淳一)

中等部 より

献金

生徒、教職員、保護者によって捧げられたクリスマス献金は、中等部祭での売上げと毎月の保護者聖書の会での献金とを合わせて、34箇所の団体・施設にお送りしました。

また、月に一度ホームルームで捧げられている献金は、友情献金・CFJ献金・JOCS(キリスト教海外医療協力会)献金として用いられています。

昨年10月分の献金(117,177円)はパキスタン北部地震被災者支援のためにお送りしました。

卒業礼拝

3月14日(火)

日本キリスト教団梅ヶ丘教会牧師の塩谷直也先生をお迎えして行います。

中等部での3年間を感謝と共に振り返り、新しい歩みへの心備えをする礼拝です。

青山学院 CFJ フィリピン訪問プログラム

3月26日(日)～31日(金)

フィリピンのチャイルド(里子)を訪問します。参加生徒が4名、引率教員は2名です。なお、本年度は初等部と大学との合同で行います。

(宗教主任 西田恵一郎)

高等部 より

クリスマス礼拝

高等部では12月19日(月)にクリスマス礼拝を行いました。第一部の礼拝では、渡辺 聡牧師(青山学院大学非常勤講師)が「クリスマスの想い出」と題して感銘深いお話をして下さいました。

第二部の祝会は、ヘアンテ・ボウマン氏(東京交響楽団首席チェロ奏者、宣教師)夫妻をお招きしました。夫妻のピアノとチェロによるクリスマス曲、また夫妻のクリスマスメッセージ

を楽しむことが出来ました。

クリスマス献金

クリスマス礼拝の中で、各クラス代表によってクリスマス献金が捧げられました。生徒、保護者（保護者聖書の集い出席者含む）、教職員、同窓会の方々によって捧げられた献金合計は、1,348,866円でした。

アジアキリスト教教育基金(ACEF)、国際精神里親運動部(CCWA)、アジア学院他、20の団体と卒業生伝道者14名に贈ることが出来ました。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大 より

卒業礼拝

3月22日(水) 13:30～14:30

青山学院講堂

宗教活動委員会 送別会

3月22日(水) 15:30～

女子短期大学音楽室

(宗教活動委員 松本美鈴)

大学 より

2005年度クリスマス献金

献金総額は1,289,493円でした。

献金先：日本聾話学校への支援、パキスタン北部大地震被災者支援、スマトラ島沖地震インド洋津波災害被災者支援に用いられます。

第二部スプリング・カレッジ

2月4日(土)～5日(日) YMCA御殿場 東山荘

講師：塩谷 直也先生(日本キリスト教団梅ヶ

丘教会牧師・本学非常勤講師)

「泣く人は泣かない人のように —絶望の中

にも笑いを捨てない、キリスト教終末論的生き方のすすめ—」というテーマのもと、36名の参加者でした。

青山学院 CFJ フィリピン訪問プログラム

3月22日(水)～31日(金)

大学からは4名が参加し、フィリピンの現状を見聞してきます。初等部、中等部と合同で行います。

オーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイ・プログラム

2月26日(日)～3月20日(月)

29名の学生が参加し、現地のクリスチャンファミリーにホームステイします。

大学卒業礼拝

3月25日(土) 10:00～

ガウチャー記念礼拝堂

説教：東方 敬信 宗教部長

(宗教センター事務室 平野修一)

本部 より

学院教職員新年礼拝

1月12日(木) 16:30～

ガウチャー記念礼拝堂

説教：西田恵一郎(中等部宗教主任)

キリスト教講演会

「ブルーリボンの祈り

—苦しみの中に生かされて—」

1月13日(金) 18:00～ ガウチャー記念礼拝堂

講師：横田早紀江氏(拉致被害者家族連絡会)

入場者：528名

(宗教センター事務室 平野修一)

No.86
訂正

表紙 那原輝彦 → 那須輝彦
おわびして訂正いたします。

編集後記

巣立ちの季節にあたり、信仰という賜物に恵まれた青少年たちが言葉を寄せてくれました。幼稚園から大学まで、それぞれの段階で成長を遂げた魂の声——。塩味の効いた人、まぶしく輝く人、それぞれの咲きかたで青山学院のモットーを自己実現してほしいと願います。かくいう私は、不惑をとうに過ぎながら、不条理にみえるこの世に心は揺らぎ、ようやく光の源を観想しつつ、大いなる御はからいに身をゆだねて、一日一日生かされている次第。あらためて、巣立ってゆく若人とともにあの霊歌を歌いたいと思います。

This little light of mine, I'm gonna let it shine! (那須輝彦)

Wesley Hall News 第87号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)
URL.<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
E-mail.agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社